



「渋谷駅埼京線ホーム移設に伴う業務体制見直し」 に関する団体交渉を行う！

2020年5月15日、JR東労組東京地方本部は、申50号「渋谷駅埼京線ホーム移設に伴う業務体制見直し」に関する団体交渉を行いました。

これからも安全、健康、ゆとりある職場も目指して精力的に交渉していきます。

乗客担当が3増となる根拠を明らかにすること。

【組合】 私たちの計算上は4名。実際、回らないのではないか。

【会社】 駅総体として必要な体制は十分整えている。対応は可能と考えている。

【組合】 今後の検証含めて、回るのか、回らないのか、年休が入らない、休日勤務が多いとなれば、要員を確保しなければならない。必要があれば要員を確保していくことでいいか。

【会社】 実施後も状況を見極めていく。要求があれば議論していきたい。

新たに配属となる乗客担当の配属時期と教育スケジュール、教育内容を明らかにすること。

【組合】 具体的な配属時期、スケジュールの中身は。

【会社】 すでに出改に着任者がいて、そこから担務変更をし、見習いを行なっていく。体制に必要な教育を行い要員確保の取り組みをしている。

【組合】 配属された方が、6月1日にスケジュール通りホーム担当をできるということか。

【会社】 標準数と現在員がある。渋谷駅は6月1日の段階で要員は確保できる。多能化とか踏まえた上で、出改札からの担務変更し、乗客担務の見習いを行い、体制を強化していく。

【組合】 改札に軸足を置いている人に乗客担当をやってもらい、6月1日をまずはスタートしようということでないということでもいいか。

【会社】 乗客担当に担務を変えた人がいて、その方に教育をしている。それ以外でもどちらも出来る社員がいるので、柔軟な対応ができる。勤務作成の段階で軸足を置いている人に軸足を置いているが、どちらもできる社員を考えている。

乗客担当の勤務作成の際には、隔たりがないように平等な勤務を作成すること。

【組合】 申し入れで要求しているように指導していただきたい。

【会社】 現場管理者とコミュニケーションを図りながら是正に努めるようにしていきたい。社員と管理者がコミュニケーションを図った上で風通しのよい職場をつくっていきたい。

6月1日以降、定年退職等が順次発生することから、乗客担当の要員体制の推移と対応を明らかにすること。

【組合】定年退職が6月と12月に発生するが、要員を確保し、作業ダイヤを回していけるということではないか。

【会社】その通りである。

【組合】育休、産休の方がいて要員が厳しい状況である。

【会社】社員がしっかりと働く環境を整えていくためには、必要な要員確保していく。休日勤務や超勤把握をして必要な要員を確保していく。

出改札担当が山手線外回りの前立に立つことから、安全第一に行動できるように教育すること。

【組合】コロナの関係で乗客がいない中での教育で大丈夫なのか。

【会社】不安は理解している。立ち番の基本は変わらないが、渋谷は駆け込みや夜間の混雑とか踏まえ、また状況の変化によって必要に応じて不安があれば現場で教育していくし、支社もサポートしていく。

【組合】一番懸念していることは、平常時ではなく、お客様がホームに転落したときに列車を止められるかということである。躊躇なく止められるのかということが社員の今後の育成でもある。「危ないと思う感性の醸成と実行力の強化」と会社は謳っている。ここを今の若い社員へ教育する。ただ渋谷駅の立ち番を回すということではなくて、やりながら育てていくということが必要だと思う。

あわせて「7つの心得」などを通じながら社員は感性を持ち始めるということだと思うので、一般的な立ち番ではない社員育成を考えて欲しい。

【会社】貴重な提言をいただいた。安全の教育はこれで終わりということはない。出改については決まった時間も勉強はしている。施策に関する教育は行っている。

【組合】30分しか教育できない社員に、緊締幕の設置、列停を押すことへの瞬時の判断ができるのか。そういうことができる教育をやるべきである。

【会社】安全のレベルを低下させるわけにはいけないので、基本指針は支社でつくっていく。さらに現場の要注意ポイントなどは教育を含めて現場と一体となって進めていく。

新設される埼京線ホームの半径470mの曲線と1000分の5%の勾配に対する安全対策とバリアフリー対策を講じること。

【組合】具体的にはどのようなことか。

【会社】階段下にステッカーを貼るなど決められた設備はしっかりと設置していく。安全キャンペーンも引き続きやっていく。バリアフリー化に基づいても行っていて、エレベーターのところに柵を設け、点字ブロックにすぐにたどり着けるような対策はしている。

【組合】CPラインのLED化を求めていくがどうか。

【会社】提言は承ったが、必要な設備は整えているので現時点は考えていない。必要な設備は状況に応じて整えていく。

【組合】くし状部材は導入しないのか。

【会社】設置する予定はない。

【組合】隙間対策だと転落検知マット、3D検知は現行あったが新ホームはどうなるのか。

【会社】転落検知マットは準備でき次第、必要な箇所に設置する。コロナの関係等遅れが生じた時はガードマンを立てるなど必要な措置を行っていく。

【組合】今後はデータ解析などによる安全が求められるので、中長期的に安全を考えた上で精度の高い設備を導入していただきたい。

【会社】今後重要になることなので対応していきたい。

山手線のホーム、線路切換えの時期と現時点での暫定ホーム事務室から本設ホーム事務室への切り替え時期を明らかにすること

本設ホーム事務室を新設する際はトイレなどの水回りと、十分な休憩スペースを確保すること。また、その際には、事務室を利用する社員と意見交換を行い、より業務が遂行しやすいホーム事務室とすること。

【組合】事務室はいつになるのか。

【会社】少なくとも2027年までには大規模改良が終わる。それまでには設置する予定である。工事行程が変わる可能性もあるが、それよりも前倒しでできるか調整している。

【組合】本設事務室には男女別のトイレ、洗面所、バックヤードの休憩スペースなど今までのホーム事務室を基本にした事務室を設置していくことで現時点はいいか。

【会社】その通りである。

【組合】現在、女性の休憩スペースがない状況であるが対応はできないか。

【会社】意見を真摯に受け止める。今後整備される事務室を視野に、条件を整えられるようにしていきたい。

今後、埼京線の利便性が向上することによって、乗客の利用率が増加することが予測される。より安全で、満足のいくサービスを提供するためにも繁忙期やイベント等の応援体制を充実させること。

【組合】埼京線のホームの流れは変わる。利便性が良くなる。渋谷はイベントも多いので現場の要望があれば引き続き応援体制を行って欲しい。

【会社】これからもイベント等は駅で体制をとりつつ、外部や地区、他の駅のテンポラリースタッフなど含めて対応していきたい。

【組合】支社としてもこれからも応援体制はしっかり行っていくことでいいか。

【会社】今までもそうだが、今後も行っていく。

新生JR東労組東京地本は、組合員と家族のために、これからも真摯に団体交渉を行っていきます。

悩んでいることや、職場で困っていることがありましたら一人で悩まずに東京地本へ連絡してください！